

2011年8月29日

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL <http://www.t-s-r.co.jp>

東京都千代田区岩本町3-7-4 TSRビル

代表取締役社長 藤田正雄

TSR - Press Release

スマートメーター市場調査分析結果を発表

～ ガスメーターは、2016年に21,995千台へ、電力メーターは、2016年に単年出荷93,940千台へ。拡大する市場に付随して、通信方式に対するビジネスチャンスを狙う多様なメーカーからも着目が集まる。PLC? 900MHz? Zigbee? M-bus? ～

株式会社 テクノ・システム・リサーチは、「2011年版 ガススマートメーター市場のマーケティング分析」を発表しました。

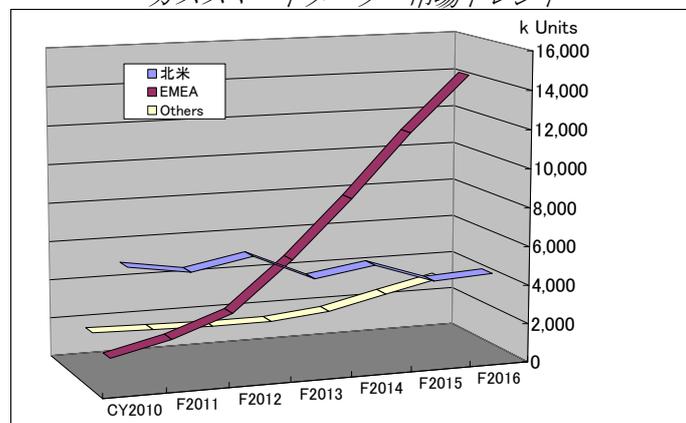
2009年以降、エネルギーの安定供給、効率化、環境対策のため、世界的にメーターを通信機能付のスマートメーターへと切り替える動きが活発になっている。電力スマートメーター市場に次ぐ形で、ガスメーターを以下の理由からスマートメーターへと移行している。

ガスメーターをスマート化する目的：

『検針コストの削減』、『ガス使用量の正確な検針』、『可視化によるエネルギーの最適利用』

2010年までは、北米市場が、検針コスト削減による Driven-by (AMR) によって、大きな市場を2006年ごろから形成してきた。また、日本市場も、プロパンガスを中心に大きな市場(AMI)であった。そのため、世界市場では、単年出荷8,965千台の市場であった。しかし、2020年までに80%のメーターをスマートメーターへと切り替える EMEA (欧州) 市場が対前年比50%以上の伸び率で2012年以降急速に増加し、2016年には、世界市場は、21,995千台の規模へと成長する。

ガススマートメーター市場トレンド



また、ガススマートメーターの特徴の一つとして、

電池駆動であるため、無線しか繋ぐことができず、低消費電力であることが求められている。

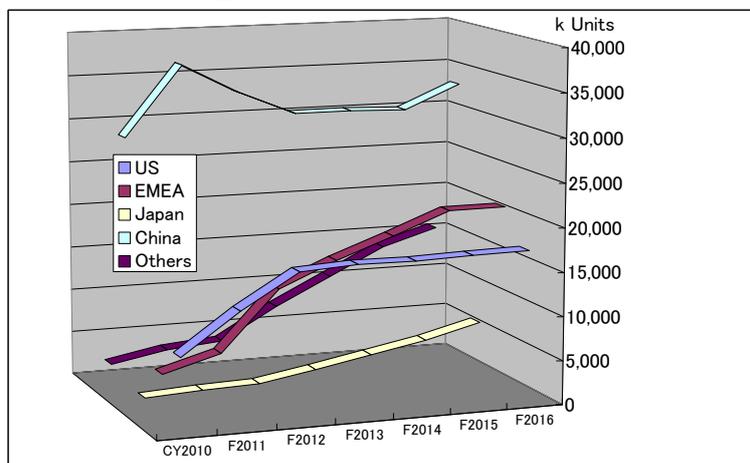
したがって、ガススマートメーター市場は、RF 市場に関して、通信チップメーカー、マイコンメーカー、センサーメーカーを始めとするデバイスメーカーにとっても有望な市場となっている。市場を牽引している日本では、中継器 (NCU) までは、950MHz 帯 (2012 年以降 920MHz 帯へ移行) を中心に特小が利用され、北米では、900MHz が主流である。しかし、2014 年以降、市場を形成する EMEA では、M-bus が有力視されている。

さらに、本レポートでは、ガススマートメーターに加え、電力スマートメーターの市場トレンドも掲載している。

電力メーターは、世界で12億台設置されており、ガスメーターの4億台と比較をしても非常に大きな市場となっている。そのため、電力メーターのスマート化は、2010年以降、北米と欧州を中心に市場が形成されている。また、日本では、震災の影響から、西日本を中心にスマートメーターの普及が進んでおり、今後の市場拡大に注目が集まる。2010年に45,191千台であった市場は、2016年には、93,940千台の市場となる。

さらに、通信方式に関しても、スマートメーターからコンセントレーターまでの通信規格が標準化されていないが、実証実験や競合モジュールベンダーの動きから、国・地域差が大きくなってきている。

電力スマートメーター市場トレンド



今後、ガス・電力メーター市場において、EMEA における市場拡大の他、通信方式の変遷に伴い、メーターメーカー×モジュールベンダー×チップベンダーのシェア争いは激しくなる。

【リリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

第1グループ 池田英信 (ikeda@t-s-r.co.jp) 吉田和美 (yoshida@t-s-r.co.jp)

Tel: 03-3851-5651